

プロフェッショナル 産地ツアーを開催

『窯元の仕事はカッコいいと伝えたい』という思いを持った若手窯元や教育、その他機関からメンバーが集まりスタートした土岐市美濃焼PRプロジェクト(第2弾)がこのたび産地ツアーを実施します。

この産地ツアーはバイヤーや商社、デザイナーの方々約20名を招待、美濃焼PR動画を作成するための素材としてツアー中に動画撮影も行います。

今回の動画は商品や製作風景をメインとするのではなく、ビジネスとして窯元を撮影し、バイヤーや商社、デザイナーの方々との商談シーンを撮影するなど新しい企画を取り入れ、窯元の仕事の魅力を伝えることを目指します。今回撮影した動画は来年2月ごろ完成する予定です。

■ 日 程 ①令和6年9月19～20日 ②令和6年9月26～27日

■ 撮影スケジュール 添付資料のとおり

■ 事業内容

- ・窯元をビジネスという目線にとらえて、その魅力を見せるための動画を制作します。(製作風景や商品をクローズアップしたこれまでの動画とは違う視点で制作)
- ・バイヤーや商社やデザイナーの方々を招待した産地ツアー(動画撮影会)を開催し、交渉シーンを取り入れるなど新しい企画を盛り込みます。
- ・動画は『教育的な役割(教育分野への啓発)』と『ビジネス的な役割』の2本を制作します。
- ・『教育的な役割(教育分野への啓発)』を持たせた動画は市内学校での啓発活動に活用して窯元の仕事の魅力を伝えます。
- ・『ビジネス的な役割』を持たせた動画ではビジネスで活用することで、美濃焼の魅力をそれぞれのバイヤーや商社、デザイナーの方々を通じて全国にPRします。

■ 土岐市美濃焼PRプロジェクトとは

美濃焼業界を始め、教育、その他機関から幅広く意見を吸い上げ、美濃焼振興事業に反映させるという目的で令和4年3月からスタート。

令和5年度からは土岐市美濃焼PR委員会の事業として活動を継続。第1弾として令和5年5月に『～やきものができるまで～オープンファクトリーモニターツアー』を実施しました。

令和5年8月から第2弾が本格始動。窯元(5事業者)、美濃焼業界以外では、岐阜大学、中小企業基盤整備機構、土岐商工会議所からもメンバーとして参加いただき、毎月1回、プロジェクト会議を実施しています。

連絡先／産業文化部地域資源活用推進課 担当:熊崎 tel 0572-54-1277(直通)

産地ツアーのお問い合わせ先／秋場事務所 秋場 tel 090-9914-5975

美濃焼産地ツアー日程表

TOUR SCHEDULE

9.19 [木]

10:00 目処 土岐市駅集合
※名古屋から中央本線快速
9:24発-10:05着がございます。

10:15~12:00 大東亜窯業様 視察

12:00~13:00 昼食
※大東亜窯業様にて昼食をご用意しています。
※次の視察予定の窯元様はアテンドのため、昼食より参加ください。

13:15~15:00 晋山窯ヤマツ様 視察

15:15~17:00 美濃文山窯様 視察

17:30~18:30 ホテルルートイン土岐
※ホテルチェックイン、休憩
※18:30にロビーに集合ください。

18:45~ 懇親会
※土岐市「美濃寿司」にて窯元様の器を
使ったお料理をご用意しています。

※懇親会終了次第、タクシーにてホテルまでお送りします。

9.26 [木]

10:00 目処 土岐市駅集合
※名古屋から中央本線快速
9:24発-10:05着がございます。

10:15~12:00 大東亜窯業様 視察

12:00~13:00 昼食
※大東亜窯業様にて昼食をご用意しています。
※次の視察予定の窯元様はアテンドのため、昼食より参加ください。

13:15~15:00 美濃文山窯様 視察

15:15~17:00 晋山窯ヤマツ様 視察

17:30~18:30 ホテルルートイン土岐
※ホテルチェックイン、休憩
※18:30にロビーに集合ください。

18:45~ 懇親会
※土岐市「美濃寿司」にて窯元様の器を
使ったお料理をご用意しています。

※懇親会終了次第、タクシーにてホテルまでお送りします。

9.20 [金]

8:45 集合 ※ホテルロビーに集合ください。

9:00~10:30 伸光窯様 視察

10:40~12:00 山功高木製陶様 視察

12:30 目処 土岐市駅 各自解散
※ご希望の方はマイクロバスにて、
土岐市駅までお送りします。

9.27 [金]

8:45 集合 ※ホテルロビーに集合ください。

9:00~10:30 山功高木製陶様 視察

10:40~12:00 伸光窯様 視察

12:30 目処 土岐市駅 各自解散
※ご希望の方はマイクロバスにて、
土岐市駅までお送りします。

- 上記日程はおおよその目処の時間となります。予めご了承ください。
- 19日・26日の昼食・夕食、20日・27日の朝食(ホテルモーニングサービス)にてご用意いたします。
- 19日・26日の夕食(懇親会)はバイヤー・クリエイター様のみとなります。予めご了承ください。
- 各社様1名分の「移動交通費」は後ほどご請求ください。ご請求いただき次第、お支払いいたします。

ご請求先

秋場事務所

秋場 紀
AKIBA OSAMU〒501-0466 岐阜県本巣市下真桑1186番地11
tel 090-9914-5975 e-mail akiba@office2023.design

- ご参加いただける会社様は「人数」「お名前」を上記までご連絡ください。ホテルの手配をいたします。
- 他、ご不明点あれば上記までご連絡ください。



(株)伸光窯 毎日の暮らしになじみ、溶け込むうつわ

伸光窯1895年(明治28年)創業。五代目 田中一光により受け継がれた技術とともに、時代の生活スタイルに合った、機能性・デザイン性の高い製品づくりを行っています。また“産地のコンシェルジュ”として、次代の美濃焼の発展に努めていきます。

「“つくる”にこだわる、あらゆる“つくる”に妥協しない。」この経営理念のもと、“つかい手”に真に求められるより付加価値の高い器とは何か?と常に問いながら、「毎日の暮らしになじみ、溶け込むうつわ」をテーマに、OEM製品から自社開発のオリジナルブランドまで幅広く手がけています。

全国の陶磁器製造シェア70%を占めるほどの生産量を誇る産地にありながら、伸光窯では、オートメーションによる大量生産は行っていません。やきものづくりの基本である土練り、成形、乾燥、素焼き、加飾、施釉、本焼きなど、すべての工程を熟練の職人の手と目によって行っています。



reddot winner 2020



晋山窯ヤマツ 幸せになる、世話を焼く。

晋山窯ヤマツは明治元年創業の陶磁器製造メーカーです。白磁土を使用した業務用の煎茶器を主力商品としながらも新しい表現にも意欲的に挑戦をしています。お客様や仕入先様、弊社に関わる皆様との信頼関係を大切に誠実な製品を製造し続けています。

土岐市の下石（おろし）町に窯を構え、徳利が有名な下石町はこんもり小さな山が連なる地形は登り窯を作るのにも適していました。陶器町、と言ってもいいほど町一帯に陶器の産業が溢れています。

パット銅板 絵付け機・線引き機・銅板紙転写などを用い、時には人の手で、時には仲間と協業して。頭の中をフル回転させて陶磁器をつくります。

晋山窯ヤマツが所有している湯呑や煎茶茶碗、土瓶などの型を使用して、お好きな柄を入れたり、釉薬の色を選んでオリジナルの商品を作ることが可能で、新規型による新商品開発も丁寧にサポートをさせていただきます。



やさしいうつわ、
うまれるところ。



大東亜窯業株式会社

当社は、1951年の創業以来、日本一の和食器メーカーを目指し、美濃焼の器を国内外に向けて製造・販売しています。最盛期には1日10万個の生産能力を誇っていましたが、現在では多品種小ロット生産にも対応し、大量生産から少量生産まで幅広い生産量を実現しています。

当社の特徴的な商品は、パット印刷技法を駆使した染付デザインの器です。白い生地を基調に、鮮やかな藍色のデザインを表現することを得意としており、割烹料理屋から居酒屋まで幅広いお店でご利用いただいています。また、家庭用の食器としても、北海道から九州沖縄まで全国の家庭で愛用されています。高品質で汎用性のある普及品をお値打ち価格で提供し、皆様の食卓を彩る美濃焼の器をお届けしています。

私たちは、伝統を守りつつも、時代のニーズに応じた革新的な製品を提供することを使命としています。これからも、国内外のお客様に満足いただける美濃焼の器をお届けするため、精進してまいります。



美濃文山窯 工芸品のような工業製品

美濃文山窯は、土岐市下石町の窯元として110年以上続いています。

手間をかけた器を一般家庭で購入しやすい価格で提供するために、作家さんたちが使うレベルの技術をどうやって一般食器に落とし込めるかを常に考え製作しています。

釉薬にもこだわり、出したい釉薬が高い温度帯では焼けないものが多いため、32~34時間と長い焼成時間と窯全体で焼けるように工夫しています。

開発も常に行なっており、窯を焚くたびに釉薬の試験を入れ、「こういうのをやりたい」と言ってもらった時にすぐに見せられるものがあるように新しいものを先に準備するようにしています。

提供した器を使っていただく方から話を伺い、そのフィードバックを元に次の企画を行うなど、使い手のことも考えながら作り続けています。



(株)山功高木製陶 わざとてまから伝わる、ぬくもりとやすらぎの時間

【わざ】 やきものの世界には様々な技法があります。「いっちゃん」、「かきおとし」、「釉抜き」、「印花」、「掛け分け」、ひとつひとつのわざはシンプルゆえに奥が深い。わざとわざを組み合わせることで新たなものが生まれてきます。そして、炎が加わることでそれはさらに未知数に。時代は変わっても、先人が残したものは変わらない。伝統を大切にしながら時代のニーズに合ったうつわをつくる。そのために“わざ”をつかうのです。

【てま】 山功高木製陶のうつわに同じものは一つとしてありません。想いを込めて職人がひとつひとつ手作業でつくっているからです。手仕事だからこそそのゆがみや、ゆらぎ、いびつさを見つけ自分だけのお気に入りを探してみてください。うつわの個性と、土があらわす質感や色の中に温かみを感じていただければと思います。使ってくださる方々が日々の暮らしの中で少しでも安らぎや温もりを感じる時間を過ごせるようにと…“てま”をかけてうつわをつくっています。